

学習支援推進委員会 自己点検・評価報告書

1-1 理念・目的

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
<p>(理念・目的等)</p> <p>○ センター等の理念・目的・教育目標とその適切性</p>	<p>・現状 本大学の各学部における教育理念の実現と教育目標の達成のため、2005年7月に学習支援推進委員会が設置されたことにより、全学的な学習支援体制がスタートした。これに伴い2005年度後期からは、これまで理工学部のみ開設されていた学習支援センターも、駿河台・和泉・生田(農学部)の各キャンパスに「学習支援室」として開設され、学習支援推進委員会のもとで教育学習支援活動を展開している。</p> <p>・長所</p> <p>・問題点 近年の学生の多国籍化及び入学選抜の多様化は、これまでの画一的な学習指導では十分対応できていない状況になっており、学生個々の多様なニーズに対しては、柔軟できめ細かい学習指導が不可欠である。</p>	<p>・学生の多様なニーズに応えられるよう、新たな取り組みを委員会で検討していく。</p>
<p>○ センター等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性</p>	<p>・現状 HPを開設し、学習支援の概要及び各キャンパスの学習支援室の紹介等を行っている他、内外へのPR用にパンフレットを作成し、留学生ガイダンスでの配布や各学部へ配置している。</p> <p>・長所</p> <p>・問題点 HPへの更新が頻繁されていないことにより、新しい情報が伝わっていない。</p>	<p>・HPの更新について、できるだけ頻繁に行うよう整備する。</p>
<p>(理念・目的等の検証)</p> <p>・センター等の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況</p>	<p>・現状</p> <p>・長所</p> <p>・問題点</p>	

1-2 理念・目的に基づいた特色ある取組み

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
<p>学習支援室(駿河台・和泉・生田)での TA 及び助手による学習指導</p>	<p>・現状 駿河台及び和泉学習支援室では、商・文・営・情コミ学部の TA 及び助手が配置され、文系の学習指導にあたっている他、学部間共通総合講座の授業補助及び不足部分の支援を行うため、教育支援部採用の TA を配置している。 和泉学習支援室では、2008 年度から国際日本学部の英語特任教員によるオフィスアワーの場所としても利用されている。 理工学部及び農学部については、それぞれに学習支援室が開設され、各専攻の TA を配置して対応している。 各学習支援室の利用状況は、和泉:約 850 名、駿河台:約 150 名、理工学部:約 1550 名、農学部:1200 名、全体で約 3750 名の利用があった。</p> <p>・長所 各キャンパスに学習支援室が設置されたことにより、基本科目に不安を抱えている学生に対して、速やかに対応できている。また、進学や留学を考えている学生に対してもアドバイスできている。</p> <p>・問題点 駿河台及び和泉学習支援室は、文系学部の支援を担当しているが、TA 等が配置されていない学部について、対応できない場合がある。 和泉学習支援室は、2007 年度後期から国際日本学部及び教養デザイン研究科の事務室開設に伴い、第一校舎の地下1階に移転したが、手狭なため十分対応できていない。 理工学部学習支援室では、利用者の多くが前期試験前に集中するため、支援を受ける学生の待ち時間の増加や TA がオーバーワークしている。 農学部学習支援室では、利用者の固定化が生じている。</p>	<p>・学習支援推進委員会で、TA を配置していない学部の委員に支援の必要性を説明し、配置を実現させる。 ・和泉学習支援室の移転については、今後の和泉キャンパスのグランドデザインの中で、考えるよう各機関に働きかけていく。 ●理工学部学習支援室では、2008 年度からは、必要に応じて助手を配置できる体制を整えているが、2009 年度については、TA の時間数増を申請する。 ・農学部学習支援室の利用者固定化を解消するため、一層のPR活動について検討を進めていく。</p>
<p>英語未習留学生に対する補習授業</p>	<p>・現状 英語が未習であったり、学習が不足していて授業についていけない留学生を支援するため、2005 年度から和泉キャンパスにおいて、外部講師による補習授業を開始した。2008 年度は、和泉キャンパスで2コマ、駿河台キャンパスで1コマ実施している。</p> <p>・長所 学生1人1人のレベルに合わせて、授業を行っているため、受講する学生にとって有意義なものとなっており、数年継続して受講している学生もいる。</p> <p>・問題点 単位が付与されない補習授業のため、後期になると極端に受講者が減少する傾向にある。</p>	<p>・学部横断的な授業として設置、単位化することについても検討を進める。</p>

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
入学前教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 早期に入学した学生のモチベーションを維持し、基礎学力の低下を防ぐため、2005年度から理工学部及び農学部が特別入試入学者を対象に実施している。実施方法は、外部業者への委託による英語と数学に関する基礎問題の通信添削(課題及び解答解説の作成、採点添削、発送業務、報告書作成)及び専任教員によるレポート課題(添削・講評)等を12月から翌年3月にかけて複数回実施している。学生のアンケートからは、学力が伸びた、役に立った等が約8割を占め、着実に成果を収めている。 2008年度は、文系学部では初めて、商学部が外部業者委託による入学前教育を導入したが、予算がついたのは2009年度からなので、2008年度については縮小した形で実施した。 ・長所 生田キャンパス(理工・農学部)では、この入学前教育とその後の補習講義を連携させ、学生が入学後速やかに授業に移行できている。 ・問題点 2008年度から商学部が導入を開始したが、まだ全学的な広がりを見せていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容及び経費等十分精査して、今後の入学前教育のあり方について、検討を進めていく。
補習講義の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 理工学部・農学部にとって、数学・化学・生物・物理等の科目は基礎科目であり、これらの基本ができていないと授業についていけない状況にある。2005年度から、生田キャンパスの学習支援プログラムの一環として、英語を加えた5科目の「フォローアップ講座」を実施している。短期集中で高校レベルの基礎学力を修得できるプログラムを整備している。 実施にあたっては、委託による外部業者と附属中野高校の教員の協力を得て実施している。各科目、高校の基礎分野をテーマにし、必要に応じて参加できるよう1回完結スタイルをとっている。 ・長所 入学前教育と連携され、学生が入学後速やかに授業に移行できている。 ・問題点 参加者が増加するにつれて、習熟度の差による不満が出始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、習熟度別講義の設置について検討を進めていく。
スポーツ入学者横断授業の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 2006年度から、基礎学力不足が認められるスポーツ特別入試入学者を対象に、法・商・政経・文・理工学部が英語科目を設置し、他地区であっても設置学部間であれば授業を履修できる環境を 	<ul style="list-style-type: none"> ・各設置科目の増減等の検討を進める。 ●2010年度学生にとって、判りやすいシラバスを作成する。

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
	<p>整えた。</p> <p>2007年度からは、経営・情報コミュニケーション学部も加わり、英語の他、ドイツ語・フランス語・中国語が設置されて、語学科目が大幅に拡充されたことにより、学生への支援体制が更に充実した。</p> <p>2008年度は、更なる拡充を図るため、科目設置学部間での履修になっていたものを、英語1コマを設置していれば、他の語学についても履修できる体制にした。</p> <p>・長所 スポーツ特別入試入学者の学生にとって、必修科目である語学を、部活の都合で融通できるシステムが出来たことにより、1・2年で語学科目を落とさずに、4年間で卒業できる体制が整った。</p> <p>・問題点 年々、設置科目も充実しているが、設置学部からの履修条件が異なるため、履修する際、学生にとって判りにくい状況にある。</p> <p>また、英語及び中国語科目の履修者が多く、学生の希望時間帯の授業が、履修できない状況にある。</p>	
<p>体育会所属学生への「授業出席確認カード」の実施</p>	<p>・現状 学生の授業出席向上を図るため、スポーツ特別入学者を対象に実施している。授業出席確認カードは、1科目につき1枚使用し、授業内容を簡潔にまとめ、授業担当者からサイン及び印の確認を受ける。</p> <p>また、半期ごとに回収し、集計したうえで各部の監督及び部長に資料として送付している。</p> <p>・長所 授業出席を促し、講義内容への理解にも繋がっており、授業参加への動機付けとなっている。</p> <p>監督及び部長に資料として送付していることで、学校での状況が分かる。</p> <p>・問題点 対象となる学生数等の関係で、参加していない学部があり、全学的でない。</p>	<p>・全学部での実施に向け、委員会において検討を進めている。</p>

2 教育研究組織

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
<p>○ センターなどの組織構成と理念・</p>	<p>・現状 本大学の各学部における教育理念の実現と教育</p>	

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
目的等との関連	<p>目標の達成のため、本大学の学生に対し、個々人に合わせた多様な学習支援を実施し、これを全学的に推進することを目的として、教務部委員会の下に、設置されている。</p> <p>委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。</p> <p>(1) 教務部長 (2) 副教務部長 (3) 各学部長が推薦する教務主任各1名 (4) 教務部長が推薦する専任教員 5名 (5) 学生部委員会委員のうちから学生部長が推薦する専任教員 1名 (6) 国際交流センター運営委員のうちから国際交流センター所長が推薦する専任教員1名 (7) 教務支援部教育支援事務長及び和泉教育支援事務長並びに学生支援部学生支援事務長3名</p> <p>委員会は、必要に応じて分科会を置くことができる。</p> <p>・長所 各学部学生の多様なニーズに対し、幅広く対応できる体制となっている。</p> <p>・問題点</p>	
・センター等の組織の妥当性を検証する仕組みの導入状況	<p>・現状</p> <p>・長所</p> <p>・問題点</p>	

3 教育内容・方法等

①教育課程等

センター等の教育課程に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 教育目標を実現するための教育課程の体系性	<p>・現状 2006年度から、基礎学力不足が認められるスポーツ特別入試入学者を対象に、スポーツ入学者横断授業が設置された。初年度は英語科目を設置し、他地区であっても設置学部間であれば授業を履修できる環境を整えた。</p> <p>2007年度からは、英語の他、ドイツ語・フランス語・中国語が設置、語学科目が大幅に拡充され、より学生</p>	<p>●教室・経費等を鑑みても、ただ安易に科目数を増やすのではなく、各学部への検討依頼の時期を早め、十分検討していただくことにより、適切な科目数を設置する。</p>

	<p>への支援体制が更に充実した。</p> <p>2008年度は、更なる拡充を図るため、科目設置学部間での履修になっていたものを、英語1コマを設置していれば、他の語学についても履修できる体制に整えた。</p> <p>これら語学科目の設置については、各学部へ設置科目数と履修者とを比較して、次年度の設置課目について検討している。</p> <p>・長所 スポーツ特別入試入学者の学生にとって、必修科目である語学の授業について、履修の融通できるシステムが出来たことにより、語学科目を落とさずに進級できる体制が整った。</p> <p>・問題点 ここ1・2年、英語及び中国語の受講者が増えており、各語学科目の設置科目数を適切に設置させることが重要となっている。</p>	
--	---	--

高・大の接続に関する目標

--

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
<p>○ 学生が後期中等教育から高等教育へ円滑に移行するために必要な導入教育の実施状況</p>	<p>・現状 早期に入学した学生のモチベーションを維持し、基礎学力の低下を防ぐため、2005年度から理工学部及び農学部が特別入試入学者を対象に実施している。実施方法は、外部業者への委託による英語と数学に関する基礎問題の通信添削(課題及び解答解説の作成、採点添削、発送業務、報告書作成)及び専任教員によるレポート課題(添削・講評)等を12月から翌年3月にかけて複数回実施している。学生のアンケートからは、学力が伸びた、役に立った等が約8割を占め、着実に成果を収めている。</p> <p>2008年度は、文系学部では初めて、商学部が外部業者委託による入学前教育を導入したが、予算がついたのは2009年度からなので、2008年度については縮小した形で実施した。</p> <p>・長所 生田キャンパス(理工・農学部)では、この入学前教育とその後の補習講義を連携させ、学生が入学後速やかに授業に移行できている。</p> <p>・問題点 2008年度から商学部が導入を開始したが、まだ全学的な広がりを見せていない。</p>	<p>・内容及び経費等十分精査して、今後の入学前教育のあり方について、検討を進めていく。</p>

社会人学生、外国人留学生等への教育上の配慮に関する目的・目標

--

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人学生, 外国人留学生, 帰国生に対する教育課程編成上, 教育指導上の配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状 英語が未習であったり, 学習が不足して授業についていけない留学生を支援するため, 2005年度から和泉キャンパスにおいて, 外部講師による補習授業を開始した。2008年度は, 和泉キャンパスで2コマ, 駿河台キャンパスで1コマ実施している。 ・ 長所 学生1人1人のレベルに合わせて, 授業を行っているため, 受講する学生にとって有意義なものとなっており, 数年継続して受講している学生もいる。 ・ 問題点 単位が付与されない補習授業のため, 後期になると極端に受講者が減少する傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学部横断的な授業として設置, 単位化することについても検討を進める。

4 学生の受け入れ(略)

5 学生生活(略)

6 研究環境(略)

7 社会貢献(略)

8 教員組織

教員組織に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
<p>(教育研究支援職員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実験・実習を伴う教育, 外国語教育, 情報処理関連教育等を実施するための人的補助体制の整備状況と人員配置の適切性 ○ 教員と教育研究支援職員との間の連携・協力関係の適切性 ・ TAの制度化の状況とその活用の適切性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状 各キャンパスの学習支援室にTAを配置している。和泉・駿河台の学習支援室では, 幅広く全ての院生に対して募集をかけ, 採用し配置しているほか, 商・文・営・情コミ学部採用のTA及び助手が配置される。 ・ 長所 特に1・2年生にとっては, 大学の授業について解らないことが多く, 相談数も多い。対応する相手が院生ということで, 相談がしやすい。3・4年生の相談は数的には多くないが, 卒論や大学院進学等に対して的確なアドバイスができる。 ・ 問題点 和泉・駿河台の学習支援室に学部からTA及び助手が配置されているが, 果たしてそれが適切な数なのか不明である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後, 委員会から各学部へTA及び助手の配置について適切であるか検討を進めていく。

9 事務組織

事務組織に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(事務組織の構成) ○ 事務組織の構成と人員配置	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 学習支援推進委員会の下，教育支援事務室としての担当は2名，和泉教育支援事務室は1名，理工学部及び農学部においても学習支援担当者がある。その他，和泉の学習支援室にはシルバー人材，理工・農学部の学習支援室については派遣が常勤している。 ・長所 ・問題点 特になし 	
(事務組織と教学組織との関係) ○ 事務組織と教学組織との間の連携協力関係の確立状況 ○ 大学運営における，事務組織と教学組織との有機的一体性を確保させる方途の適切性	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 教育支援事務室が事務局として担当している。 ・長所 ・問題点 	
(事務組織の役割) ○ 教学に関わる企画・立案・補佐機能を担う事務組織体制の適切性 ○ 学内の意思決定・伝達システムの中での事務組織の役割とその活動の適切性 ○ 国際交流等の専門業務への事務組織の関与の状況 ○ 大学運営を経営面から支えうるような事務機能の確立状況	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 ・長所 ・問題点 	
(スタッフ・ディベロップメント(SD)) ○ 事務職員の研修機会の確保の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 ・長所 	

とその有効性 ・事務組織の専門性の向上と業務の効率化を図るための方途の適切性	・問題点	
---	------	--

10 施設・設備等

施設・設備に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(施設・設備等の整備) ○センター等の目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性 ○教育の用に供する情報処理機器などの配備状況 ・記念施設・保存建物の管理・活用状況	・現状 2005年度後期から、各キャンパスに学習支援室が設置された。和泉キャンパスは第一校舎地下1階、駿河台キャンパスはリバティタワー7階、理工学部は第二校舎1号館2階、農学部は第一校舎1号館3階に設置されている。 ・長所 ・問題点 和泉学習支援室が、2007年度後期からの国際日本学部及び教養デザイン研究科の事務室開設に伴い、第一校舎の1階から地下1階に移転したが、手狭なため十分対応できていないうえ、学生にとって判りにくい場所になったため、利用者が若干減少した。	・和泉学習支援室の移転については、今後の和泉キャンパスのグランドデザインの中で、検討するよう各機関に働きかけていく。

11 図書および図書・電子媒体等

12 管理運営

管理運営に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(運営委員会等) ○委員会の役割とその活動の適切性 ○運営委員会とセンター長等との間の連携協力関係および機能分担の適切性 ○センター等と評議会、大学協議会などの全学的審議機関間の連携及び	・現状 ①委員会は、委員長が招集する。 ②委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。 ③委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。 ④委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。 ⑤委員会は、必要に応じて分科会を置くことができる。 ⑥分科会委員は、委員会委員のうちから、委員長が指名する。 ⑦前項のほか、委員長は、必要に応じて教職員のうち	

<p>役割分担の適切性</p>	<p>から、分科会委員を委嘱することができる。</p> <p>⑧分科会には、座長を置き、委員会委員のうちから、委員長が指名する。</p> <p>⑨分科会に関し必要な事項は、委員長が委員会の同意を得て、これを定める。</p> <p>・長所 分科会を設置できることにより、特定に事柄について、集中的に検討できる。</p> <p>・問題点</p>	
<p>(センター長等の権限と選任手続) ○ 選任手続の適切性、妥当性 ○ 権限の内容とその行使の適切性 ○ 補佐体制の構成と活動の適切性</p>	<p>・現状 ①委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。 ②委員長は、第3条第1号の委員をもってこれに充てる。 ③副委員長は、委員のうちから、委員会の同意を得て、委員長が指名する。 ④委員長は、会務を総理する。 ⑤副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。</p> <p>・長所 委員会設置要綱に定められており、適切性は保たれている。</p> <p>・問題点</p>	
<p>(意思決定) ○ 意思決定プロセスの確立状況とその運用の適切性</p>	<p>・現状 委員会は、次に掲げる事項の推進を審議し、意思決定を行っている。</p> <p>①学生の学習意欲を喚起させる啓発活動に関する事項 ②各学部が実施する基本科目の学習指導に関する事項 ③学生の基礎学力を向上させるための補習授業に関する事項 ④スポーツ技能重視入学者等に対する基礎科目の全学的授業の実施に関する事項 ⑤学業優秀者の学習意欲を更に向上させるための学習指導に関する事項 ⑥学習支援室の運営に関する事項 ⑦その他委員会が必要と認めた事項</p> <p>・長所 適切に意思決定されている。</p> <p>・問題点</p>	

13 財務(略)

14 自己点検・評価

自己点検・評価に関する目標		
点検・評価の結果生じた問題点について、真摯に改善に取り組む。		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(自己点検・評価) ○ 自己点検・評価を恒常的に行うための制度システムの内容とその活動上の有効性 ○ 自己点検・評価の結果を基礎に、将来の充実に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 学習支援室を利用する学生へのアンケートについて、委員会にて検討されているが、まだ実施されていない。学習支援室の体制について、利用する側からの意見を反映させるためにも、今後、導入していく。 また、毎年自己点検・評価報告書の作成時に、記述内容について全学的な点検が行われている。 ・長所 ・問題点 アンケート内容、実施時期をいつにするか検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2009年度の委員会にて、アンケート内容、実施時期について検討し、年度内に実施する。
(自己点検・評価に対する学外者による検証) ○ 自己点検・評価結果の客観性・妥当性を確保するための措置の適切性 ・外部評価を行う際の、外部評価者の選任手続の適切性 ・外部評価結果の活用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 大学基準協会から大学認証評価を受審し、「適合認定」を受けた。 ・長所 本学の自己点検・評価に対し指摘は無く、その認証評価結果から、一定の客観性・妥当性を確保しているといえる。 ・問題点 	
(大学に対する社会的評価等) ・センター等の社会的評価の活用状況 ・自大学の特色や「活力」の検証状況	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 ・長所 ・問題点 	
(大学に対する指摘事項および勧告などに対する対応) ○ 文部科学省からの指摘事項および大学基準協会からの勧告などに対する対応	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 本学に対する文部科学省からの指摘事項及び大学基準協会からの勧告等があった場合は、自己点検・評価全学委員会を対外的な窓口として、学部等自己点検・評価委員会で対応することになっている。 ・長所 ・問題点 	

15 情報公開・説明責任(略)